

# 経済・金融 フラッシュ

## 消費者物価(全国 10年 11月) ～下落幅の縮小傾向が続く

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. コア CPI の下落率は前月から 0.1 ポイント縮小

総務省が12月28日に公表した消費者物価指数によると、11月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比▲0.5%となり、下落率は前月から0.1ポイント縮小した。事前の市場予想（共同通信集計：▲0.6%、当社予想も▲0.6%）を上回る結果であった。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比▲0.9%（10月：同▲0.8%）、総合は前年比0.1%（10月：同0.2%）となった。

消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合
09年 7月	▲2.2	▲2.2	▲0.9	▲1.8	▲1.7	▲1.1
8月	▲2.2	▲2.4	▲0.9	▲1.7	▲1.9	▲1.1
9月	▲2.2	▲2.3	▲1.0	▲2.1	▲2.1	▲1.4
10月	▲2.5	▲2.2	▲1.1	▲2.4	▲2.2	▲1.4
11月	▲1.9	▲1.7	▲1.0	▲2.2	▲1.9	▲1.3
12月	▲1.7	▲1.3	▲1.2	▲2.2	▲1.9	▲1.5
10年 1月	▲1.3	▲1.3	▲1.2	▲2.1	▲2.0	▲1.4
2月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	▲1.8	▲1.8	▲1.3
3月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	▲1.7	▲1.8	▲1.2
4月	▲1.2	▲1.5	▲1.6	▲1.5	▲1.9	▲1.4
5月	▲0.9	▲1.2	▲1.6	▲1.4	▲1.5	▲1.4
6月	▲0.7	▲1.0	▲1.5	▲1.0	▲1.3	▲1.4
7月	▲0.9	▲1.1	▲1.5	▲1.2	▲1.3	▲1.4
8月	▲0.9	▲1.0	▲1.5	▲1.0	▲1.1	▲1.4
9月	▲0.6	▲1.1	▲1.5	▲0.6	▲1.0	▲1.3
10月	0.2	▲0.6	▲0.8	0.3	▲0.5	▲0.6
11月	0.1	▲0.5	▲0.9	0.2	▲0.5	▲0.6
12月	—	—	—	▲0.2	▲0.4	▲0.5

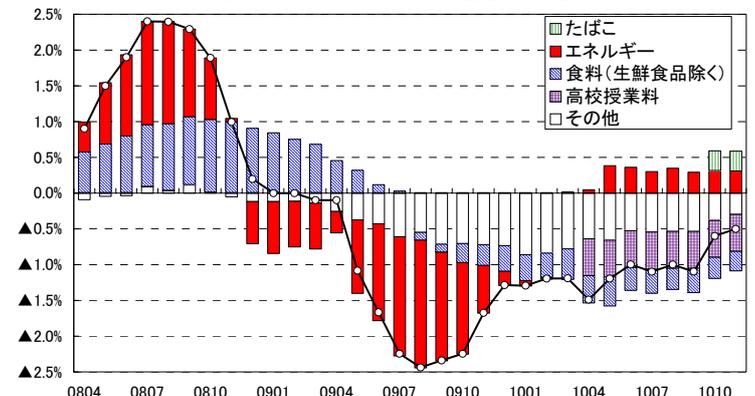
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳を見ると、ガソリン（10月：前年比2.7%→11月：同4.3%）、灯油（10月：前年比12.3%→11月：同12.4%）の上昇幅は拡大したが、電気代（10月：前年比3.0%→11月：同2.0%）、ガス代（10月：前年比4.3%→11月：同4.0%）、の上昇幅が縮小したため、エネルギー全体の上昇率は10月の前年比4.0%から同3.9%へと若干縮小した。

食料品（生鮮食品を除く）は前年比▲1.2%（10月：同▲1.3%）と16ヵ月連続で下落したが、下落幅は前月よりも若干縮小した。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.31%（10月は0.32%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.27%（10月は▲0.29%）、高校授業料が▲0.52%、たばこが0.28%、その他が▲0.30%（10月は▲0.38%）であった。

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解

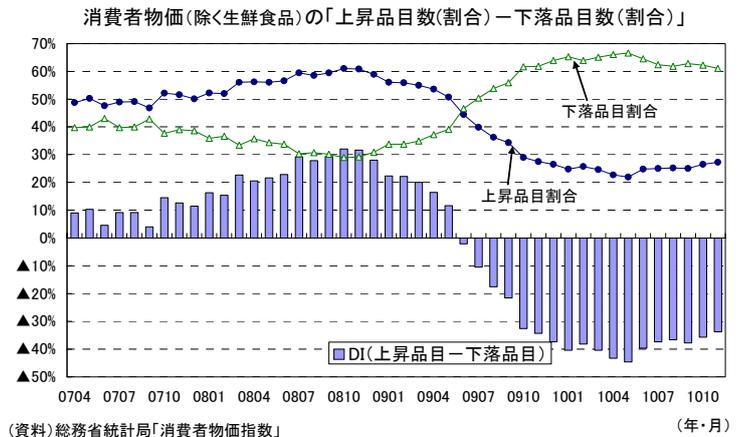


(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

(年・月)

## 2. 物価下落品目数が2ヵ月連続で減少

消費者物価指数の調査対象524品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、11月の上昇品目数は143品目（10月は139品目）、下落品目数は320品目（10月は326品目）となり、下落品目数は2ヵ月連続で減少した。上昇品目数の割合は27.3%（10月は26.5%）、下落品目数の割合は61.1%（10月は62.2%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲33.8%（10月は▲35.7%）となり、マイナス幅が若干縮小した。



## 3. 11年4月以降はプラス転化の可能性も

12月の東京都区部のコアCPIは前年比▲0.4%となり、下落率は前月から0.1ポイント縮小した。事前の市場予想（共同通信集計：▲0.4%、当社予想も▲0.4%）通りの結果であった。

東京都区部のコアCPI上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.17%（11月は0.22%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.28%（11月は▲0.26%）、高校授業料が▲0.38%、たばこが0.21%、その他が▲0.13%（11月は▲0.30%）であった。

なお、天候不順などから高騰が続いていた生鮮食品の上昇率が低下した（11月：前年比17.9%→12月：同8.1%）ため、総合指数は前年比▲0.2%と3ヵ月ぶりに前年比で下落に転じた（11月：前年比0.2%）。

コアCPIは下落幅の縮小傾向が続いており、先行きについては国際商品市況の上昇を背景にエネルギー価格の上昇ペースが加速することが見込まれる。また、11年4月以降は、足もとのコアCPIを0.5ポイント程度押し下げている高校授業料無償化の影響が一巡する。11年8月に予定されている基準改定に伴い上昇率が大きく低下する可能性があることを念頭に置いておく必要はあるが、11年度入り後、コアCPIは前年比で上昇に転じる可能性もあるだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。